ぶらり散歩　＊＊ 寺田縄の秋を訪ねて ＊＊　　２０１４年（平成２６）１１月

秋の色彩をもとめ 散策してきました。

９月末の水田です。一面の稲穂、実りの重さに穂が垂れています。

１０月、刈入れ後の水田です。畑に転化、何が植えられるか楽しみです。

セイタカアワダチソウ（別名：セイタカアキノキリンソウ）

保育園と宅地？予定の空地に被い繁っています。北米原産の帰化植物。貿易品に付着して海を渡ったと思われます。高さは 1～2mにも成長するようです。

秋を彩る植物として最初に出合いました。

黄色の円錐花序（えんすいかじょ）を作り、かつては花粉症の原因とされたようですが、スギは風媒花（ふうばいか）、セイタカアワダチソウは虫媒花（ちゅうばいか）であることから、今は否定されているそうです。

ご存じのススキです。遠くに相模大山の頂が見えます。寺田縄地域の北、岡崎地域と接点にあたります。

「花菜ガーデン」の花のタワーです。

黄色のマリーゴールドと赤いサルビアが人目を引きつけます。

近くに神奈川県立平塚養護学校があり、車いすの生徒が横断歩道を渡たっています。

「花菜ガーデン」のフェンスになっているレッドロビン（別名ベニカナメモチ）の垣根です。

色鮮やかです。新芽が赤くなるそうです。

秋の色を探していたら、黄色に塗られている「誘蛾灯」とイチョウの木に出合いました。

誘蛾灯とは「昆虫の走光性を利用して害虫を誘殺する電灯」とありました。夜間、電灯に集まる昆虫をロートで受け、下に設置された殺虫剤の入った水盤に落として殺す装置です。稲の害虫のニカメイチュウの駆除に有効とされてきました。現在は薬剤駆除が主となり、発生を予め知ることに使われているようです。（百科事典マイペディア・改）

正面の扉にはドクロマーク（危険物）が描かれていました。イチョウの色付きは、今ーです。ガードレールの向こうは古川排水路。誘蛾灯の向こうには、水田が広がっています。

同じイチョウの木を反対側から見ています。

桜の並木も連なっています。葉の紅葉はまだ早く、落ち葉もわずかです。

春になると見事な花を咲かせます。

左手フェンスの中が花菜ガーデンです。

寺田縄地域の最西端、飯島地域との接点、農道で分けられています。

一説によると、かつて、ここには「ナガヤマ」という「ひかえ土手」が築かれていたとのことです。

丹精込められた「ザル菊」が整然と植えられ、花を咲かせています。

ザル菊の名称は、その姿が「ざる」を伏せたような形から付けられたようで、１本の株には 4000 個ほどの小菊が集まっているそうです。

個人宅の庭先に見つけたピラカンサ、とザクロです。

ピラカンサは春に小さな白い花を咲かせ、赤や黄色のつややかな実を付けます。バラ科で刺があります。

「火のような赤」とたとえられています。

「秋が深まるとヒヨドリ、ムクドリがついばみに来る」と、ご主人の言葉です。

ザクロの実

個人の庭先、枝にたわわに実ったカキです。

秋にはこれが無くてはなりません。
秋の主役です。

庭先のミカン。
日当たりのよい門扉の正面に実を付けています。

かりんが実を付けています。
菜園の縁に植えられています。

今は時期が終わりましたが、「イチジク」も実ります。赤く食べ頃になると、鳥に先を越されることがしばしばありました。